

#### 4班 ワークショップ内容

リーダー	まちづくりの推進のためのリーダー育成（中心となる人）
	熱意のあるリーダーがいないと当初はうまくいかない
コミュニティ	広範囲であることから、コミュニティを基本に。1人1人では限界がある
役割	それぞれの役割を認識すること
	最後まで責任を持つこと
住民意識 住民参加	そこに住んでいる人達が主役であり、生き生きと暮らしていけることが大切
	合併して良くなった部分と悪くなったを聞いてみる
	住民もまちづくりに責任を持つ
	仕事のための仕事ではなく、目標達成のための仕事を自覚
	協働とは何か理解する
	地域エゴで判断しない（大局的に考える）
	広域的に他の地域の事も尊重しあう
	相手の立場を尊重する（話をする、理解する等）
	リーダーの下、大いに住民を頼りにすることによって、参加している意識を持ってもらえる政策であること
	全ての市民が参加しやすい条例を目指す
	自分たちの地域(地区)のことは自分たちで考え、自分たちで決め、自分たちで実効する必要がある
	上越市が1つになるための大きなイベントを考えたらどうか
上越市民としての意識を高めるにはどうしたらよいか	
行政へ	行政が率先して考え、行動してもらいたい
	地区によって温度差があるので、平らな協働(まちづくり)を課さないでほしい
	合併になっても、市の予算執行が早め早めで各地区平等になることが優先
	市民の小さな意見を吸い上げるための制度づくり・機会が重要 (市民の声ポストではとかく批判が中心になる建設的な意見を)
	情報提供の際は、行政用語はなるべく使わない わかりやすい言葉で
市民のニーズ	地元(コミュニティ)の意見をよく聞いたうえでまちづくり
	子どもや若者の声が市政に反映されるような体制の確立
	市民の意見を聞いてそれを反映させる
	市民ニーズを的確に把握する
共通認識	生活環境の整備。特に合併後の学校、病院、消防署、警察署等
	あるべき姿の共通認識を持つ（目標）
	まちづくりの目標を可能な限り持つ（周知等）21万人が共通認識を持つこと
	目標がわかりやすいこと 誰もが意見できる
	市民が理解しやすい言葉で表現する
情報	共通認識を持った上で議論しなくてはいけない
	一市民でも市政に関する情報が簡単に入手できる
	市政への要望、苦情がストレートに行政へ伝わる制度
	行政側から市民への情報提供が不十分。広報だけでなく、ケーブルTV網やインターネット事業をバックアップできれば良いのでは？
	市外地に住む方に対しての、情報の発信を充実させる（観光、イベントなど）

#### 発表より補足

- ・ コミュニティ ... 共同体、目的を持った集まり
- ・ 行政も住民も共通の目標、共通認識を持たなければならない
- ・ 情報の提供が必要（住民 行政、行政 住民）  
（コミュニティ 行政、行政 コミュニティ）
- ・ 住民にも行政にもコミュニティにもリーダーが必要 リーダーを育成する